

外海・潜伏キリシタン崇敬の伝道師



外海のかくれキリシタンに伝わる「バスチャン」
の日縁り」(村上茂則さん蔵)

長崎・外海地区の潜伏キリシタンが崇敬していた伝説の日本人伝道師「バスチャン」の有力なモデルとみられる殉教者を、東京大史料編纂(へんさん)所助教の岡美穂子さん(39)が文献から特定したことが23日、分かった。

「バスチャン」は江戸時代のキリスト教禁制下で布教し、潜伏信徒が信仰生活を維持するよ

りどころになった「日縁り(教會暦)」や「神父が黒船に乗つ

東大・岡助教、文献から特定

て再来する」などの予言を残してたと伝えられる。捕まつて激しい拷問の末に殉教したとされるが、実在を裏付ける資料は確認されていない。

岡さんは、江戸期の宣教師記録「ディエゴ・デ・サン・フランシスコ報告書簡集」の中に「バ

「バスチャン」に有力モデル

ステイアン」という洗礼名の人

物が1630年10月28日に処刑されたとの記述を見いだした。

「日本切支丹宗門史」(186

9年)も同じ人物とみられる「セ

バスチャン北太山庄右衛門」が

同日に殉教したと記していた。

同日は和暦の寛永7年9月23

日に当たる。伝承の「バスチャ

ン

ン」は殺された23日を決して忘れてはいけないと遺言したとき

れ、外海の潜伏信徒は毎月23日を休日とみなしていた。

伝承の「バスチャン」は宣教

ズス会の神父から洗礼を受け、在俗信徒の組織「第三会」に属して活動し、妻子がいたと記している。

岡さんは「バスチャン」という

洗礼名の殉教者は少ない。洗礼名と殉教日がいずれも伝承と一致するのはとても興味深い」と

みる。

ただ、伝承の「バスチャン」が残したとされる「日縁り」は1634年の教会暦で、同年には「バステイアン(北太山)」は既に死亡している。出身地も長崎・布巻とする伝承とは異なる。

「バスチャン」のモデルは日

本人で初めて司祭になつた平戸

出身のセバスチャン木村(16

22年殉教)とする説もある。

岡さんは「バスチャン」という洗礼名を持つ複数の人物の業績が伝説の中に集約されている可能性がある」と話している。

(松尾潤)